

WRO Japan2011 熊本大会 共通ルール

1. WRO Japan2011 熊本大会の競技ルールは WRO Japan2011 熊本大会実行委員会によって設定され大会期間中のみ適用される。
2. WRO Japan2011 熊本大会は、小中学生によって製作制御される自律型ロボットの競技会である。競技は、WRO Japan2011 熊本大会実行委員会および運営スタッフ等により運営される。
3. 参加資格とチーム構成
 - 1) 選手の年齢ごとに各部門に参加すること。
 - 2) 各部門の選手の参加資格
 - 小学生部門：1999.4.2 以降に生まれたもの
 - 中学生部門：1996.4.2 以降 1999 年 4.1 までに生まれたもの各部門の出場選手は、熊本県内の小学校、中学校のいずれかに在籍していること。なお、WRO Japan2011 熊本大会にて WRO Japan2011 決勝大会参加チームに選抜された場合、熊本代表チームとして、2011 年 9 月開催の WRO Japan2011 決勝大会に参加すること。
 - 4) チーム構成
 - 参加はチーム単位とする。チームは 1 名のコーチと 2 名の選手で構成されていること。コーチは成人であること。コーチ 1 名と選手 1 名のチームはチームとして認められず参加できない。
 - 5) 引率者としてのコーチ
 - コーチは成人のものとし、選手の引率者として選手の行動に責任を持つこと。
4. 機材、ロボット、ソフトウェア
 - 1) 市販されているロボットキットであること。
 - 2011 年大会は、以下の市販ロボットキットとする。
 - ・教育用レゴマインドストーム NXT
 - ・玩具用レゴマインドストーム NXT
 - ・教育用レゴマインドストーム RCX
 - 2) ロボットは電池を動力源とするもので、電源電圧規格は 10V 以下であること。
 - 3) 利用できるモータとセンサは以下とする。利用個数に制限はない。
 - ・ DC モータ
 - ・電気式サーボモータ
 - ・光センサ（明度を測る）
 - ・タッチセンサ（接触を測る）
 - ・温度センサ（温度を測る）
 - ・角度センサ（動作角度を測る）
 - ・超音波センサ（距離を測る）

- ・音センサ（音量を測る）
 - ・カラーセンサ（色を測る）
- 4) ロボットを自律制御するプログラムは、ロボットキット専用開発された市販ソフトウェアによって作成すること。
2011年大会は、以下のソフトウェアとする。
- ・ROBOLAB（各バージョン） 教育用NXTソフトウェア（各バージョン）
- 5) 機材にアクシデントや故障があった場合でも、競技委員はいかなる修理や交換も行わず、責任を負わない。
- 6) 競技ルールに認められていない機材を使用したチームは競技において失格とする。

5. ロボットの規格

- 1) 競技ルールで特別に定めた場合を除いて、競技開始時点のロボットの最大サイズは 250mm × 250mm × 250mm 以内であること。
- 2) ロボットは自律的に競技すること。競技ルールで特別に定めた場合を除き、選手はロボットへの干渉、補助となる行動をしてはいけない。競技ルールで特別に定めた場合を除き、競技の間ロボットは外部から物理的な方法によってエネルギー、力、情報などを与えられてはいけない。
- 3) ロボットに外部から情報を受ける通信機能を搭載している場合、その通信機能は使えない状態にしておかなければならない。
- 4) ロボットを構成する部品は市販されている状態で使用すること。部品の改造は認めない。
- 5) ネジ、接着剤、テープ等ロボットを構成する部品以外のものでもロボットを補強してはいけない。
- 6) ロボットは故意に競技コースを破損、汚損してはならない。
- 7) 規格に違反したロボットはその競技において失格とする。

6. 競技会

WRO Japan 2011 熊本大会では以下の競技を行い、WRO Japan 2011 決勝大会参加チームを選考する。

小学生部門：GUIDE ROBOT

中学生部門：STAIR CLIMBER

各競技ルールは別紙の競技課題およびルールを参照してください。

- 1) 各競技は 2 回行われる。
- 2) 各チームは競技開始前に、車検エリアにロボットを置き所定の場所に整列する。その後、車検を行い、ロボットが規定をすべて満たしていることを審判が確認後、競技開始となる。なお、競技順は大会当日に発表される。
- 3) 車検エリアにロボットを置いた後は競技時間まで選手はロボットに触れてはいけない。
- 4) 検査時間に審判によるロボット規定の確認を行う。もし規定違反が発見された場合、審判の指示により 3 分間の調整時間が与えられる。調整時間内に改善されない場合はその競技に参加することができない。

- 5) 1 回目の競技終了後、30 分間のメンテナンス時間が与えられる、メンテナンス時間内に選手はロボットを控え室に持って行きロボットの組み立て、プログラミング、競技コースでの試走ができる。
- 6) どの時間においても各チームは他のチーム、他のロボットの邪魔をしてはいけない。同じ競技に挑戦する仲間として正々堂々と行動すること。
- 7) 各ルールにおけるロボット本体とは、制御部本体をさす。
- 8) 審判が競技の続行が不能と判断した場合、またはスタート後、選手がロボットに触れた場合、その時点でリタイアとする。
- 9) リタイアの場合、その直前までに獲得したポイントが認められる。

7. 得点と順位

- 1) 各チーム競技後、審判により得点計算が行われる。その結果に異議がある場合は審判に申し出ること。選手から異議が申し込まれた場合、審判は真摯に対応し、必要な得点計算をやり直す。審判が異議を認めず、選手がその結果を拒んだ場合、チームは失格となる。
- 2) 異議は審判により得点計算が行われた直後でなければ申し立てることはできない。
- 3) 2 回の競技のベストスコアにより順位を決定する。ベストスコアが同点の場合は、そのチームのセカンドスコアにより順位をつける。2 つのポイントによって順位が決まらない場合はベストスコアのタイムで順位を決定する。

8. 再競技

- 1) 不慮の事故のために競技に支障が発生した場合、審判は再度競技することを指示することがある。
- 2) 競技コースや外部環境が競技に影響を与えた疑いがある場合、選手はその場で再競技を申し出ることができる。審判が影響あったと認めた場合、再競技できる。
- 3) 再競技が行われた場合、再競技の結果を得点とする。

9. 競技コース・競技エリア・控え室

- 1) 競技コースはロボットが競技する設備であり、競技ルールにある特別な場合を除いて、選手は触れてはいけない。
- 2) 競技エリアは競技コースを含んだ選手が競技する場所であり、実行委員、運営スタッフ等、それらに許可された者、競技する選手だけが入ることができる。
- 3) 控え室は選手がロボットの調整を行う場所であり、チームごとに決められた場所を使う。大会開会后、控え室には実行委員、運営スタッフ等、それらに許可された者、競技する選手だけが入ることができる。
- 4) コーチは大会開会后に競技エリア、控え室に入ることができない。

10. 禁止事項

- 1) 競技エリア、控え室で携帯電話、トランシーバ、LAN、インターネット、手話、発声等で選手はコーチや観客と連絡をとってはいけない。

- 2) 他チームのロボットや選手および運営の妨害。
- 3) 競技コースを含む会場設備等の損害、汚損。
- 4) その他、実行委員、運営スタッフ等が妨害や不正とみなす可能性のある行為。

11. 雑則

- 1) 審判は競技中、絶対的な権限を持つ。また、競技委員はルール違反を発見した場合、そのチームを失格とする権限を持つ。
- 2) 失格とされた場合、そのチームはただちに競技を中止し、その競技は無得点となる。
- 3) 競技ルールの解釈は審判により判断される。
- 4) 競技の審査、ルールの解釈等で判断が難しい場合、実行委員、運営スタッフ等は協議を行う。
- 5) ルールに記載していないケースが発生した場合はその度に実行委員、運営スタッフ等により協議を行う。

以上